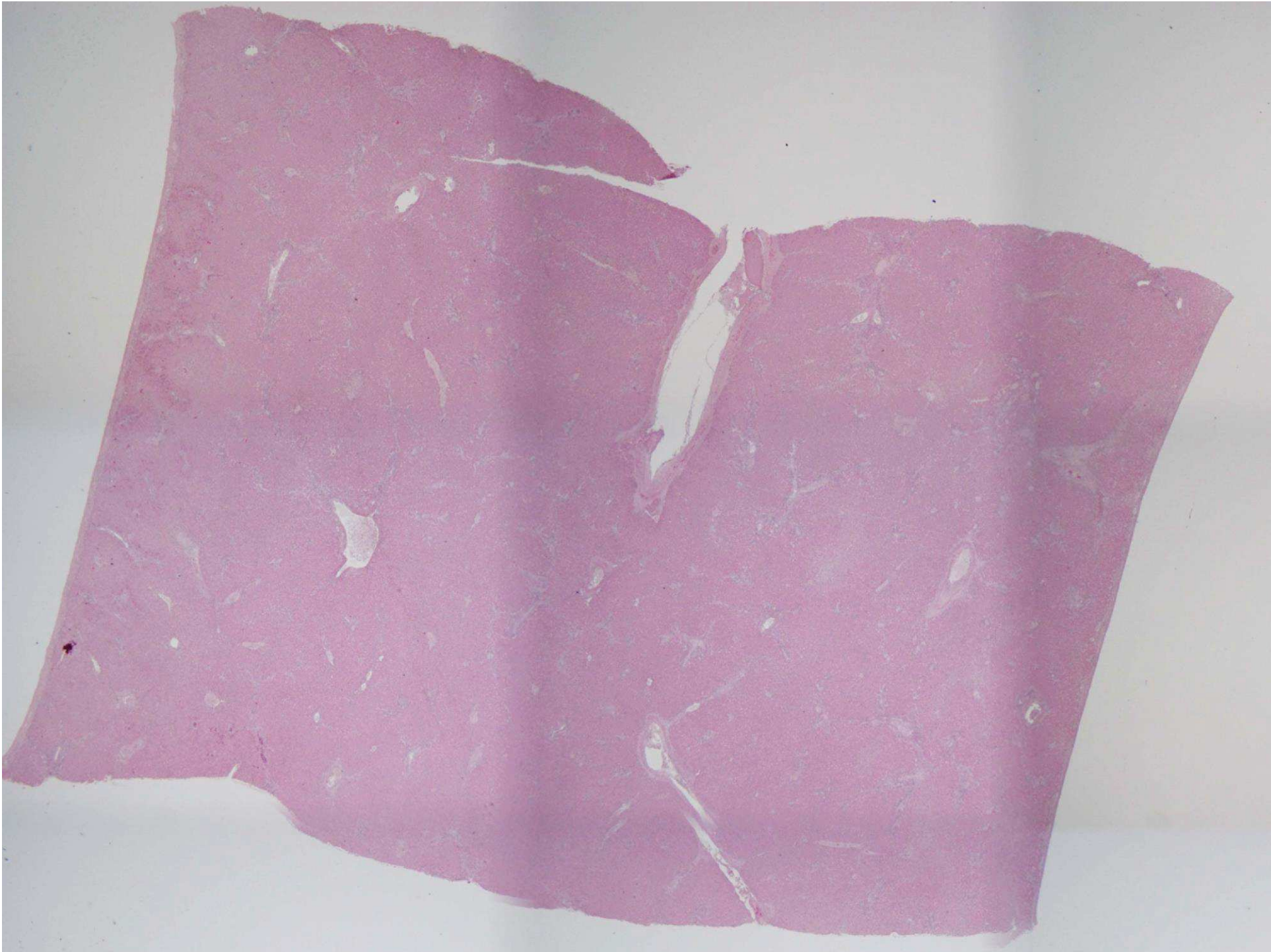


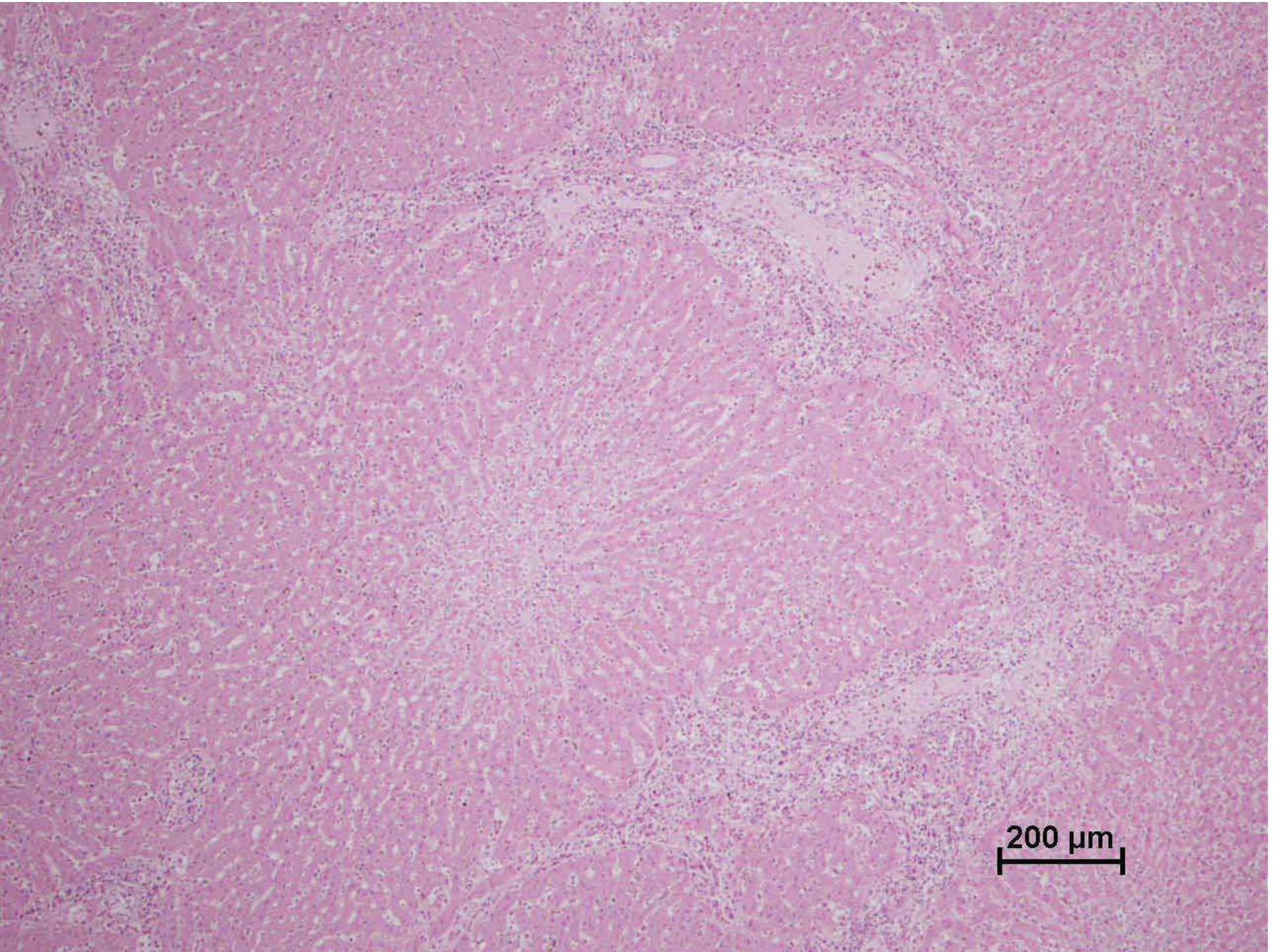
# 2015-19-2 ウマ 肝臓

病理ユニット 辻まりこ

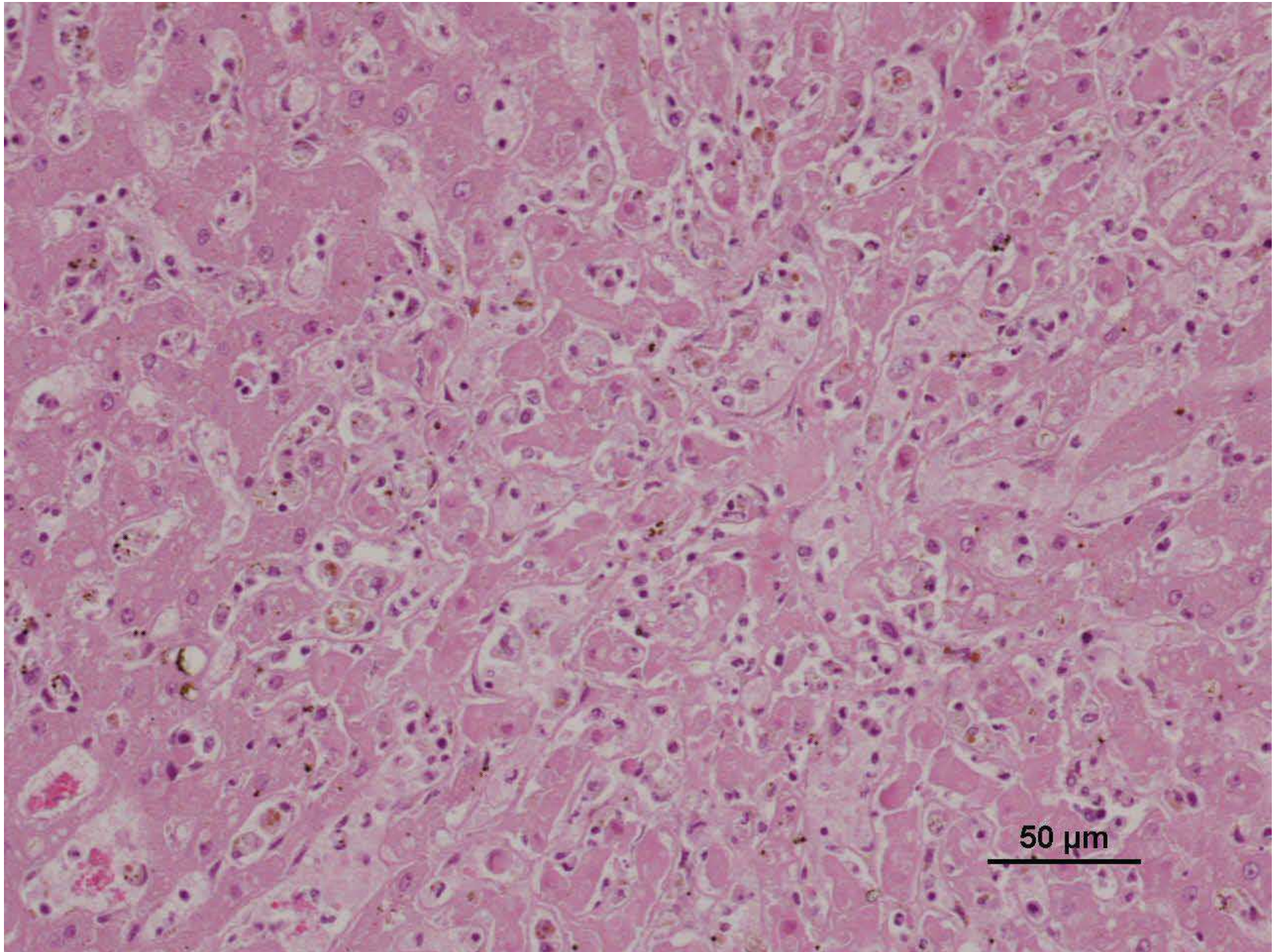
- ◆ 提出機関 : University College Dublin Veterinary Center, Ireland
- ◆ 患 畜 : 馬 (サラブレッド) 、 11歳、雌
- ◆ 病 歴 : 貧血が繰り返し発生、胸腹部の水腫、体重減少、嗜眠傾向、過去にCoggin'sテスト (AGID testによる抗体検出) 陽性
- ◆ 背 景 : 2006年にイタリアから輸入された馬伝染性貧血ウイルス (EIAV) に汚染された高度免疫血漿を4頭の子馬に接種し発症。その後医原性伝播により感染拡大。結果38件の発症が認められた。
- ◆ 肉眼病変 : 心嚢水10mL貯留、肝臓腫大・暗赤色、脾腫、腎臓および脾臓の被膜や小腸の漿膜に点状出血、骨髄はびまん性に赤色・半透明



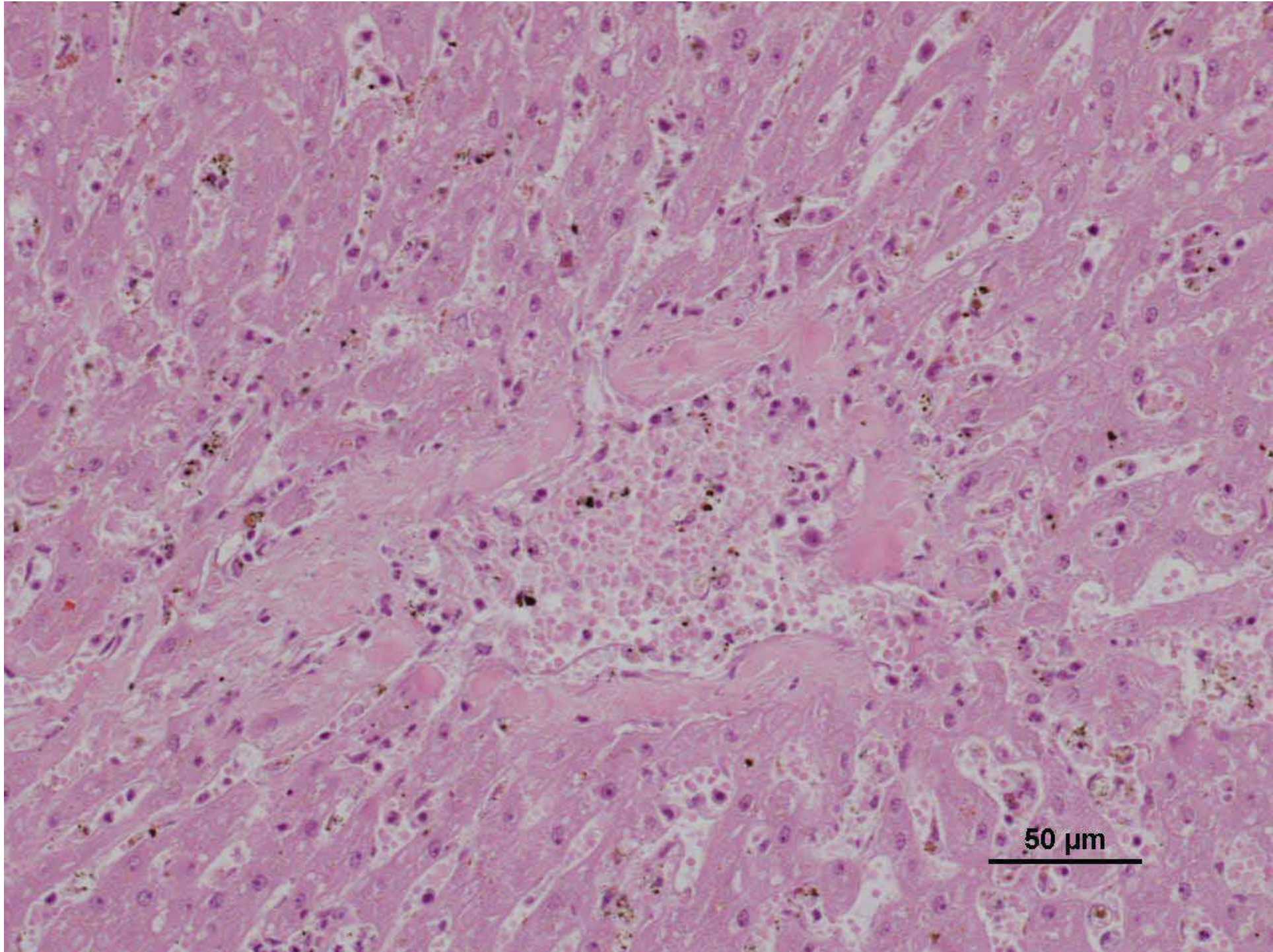




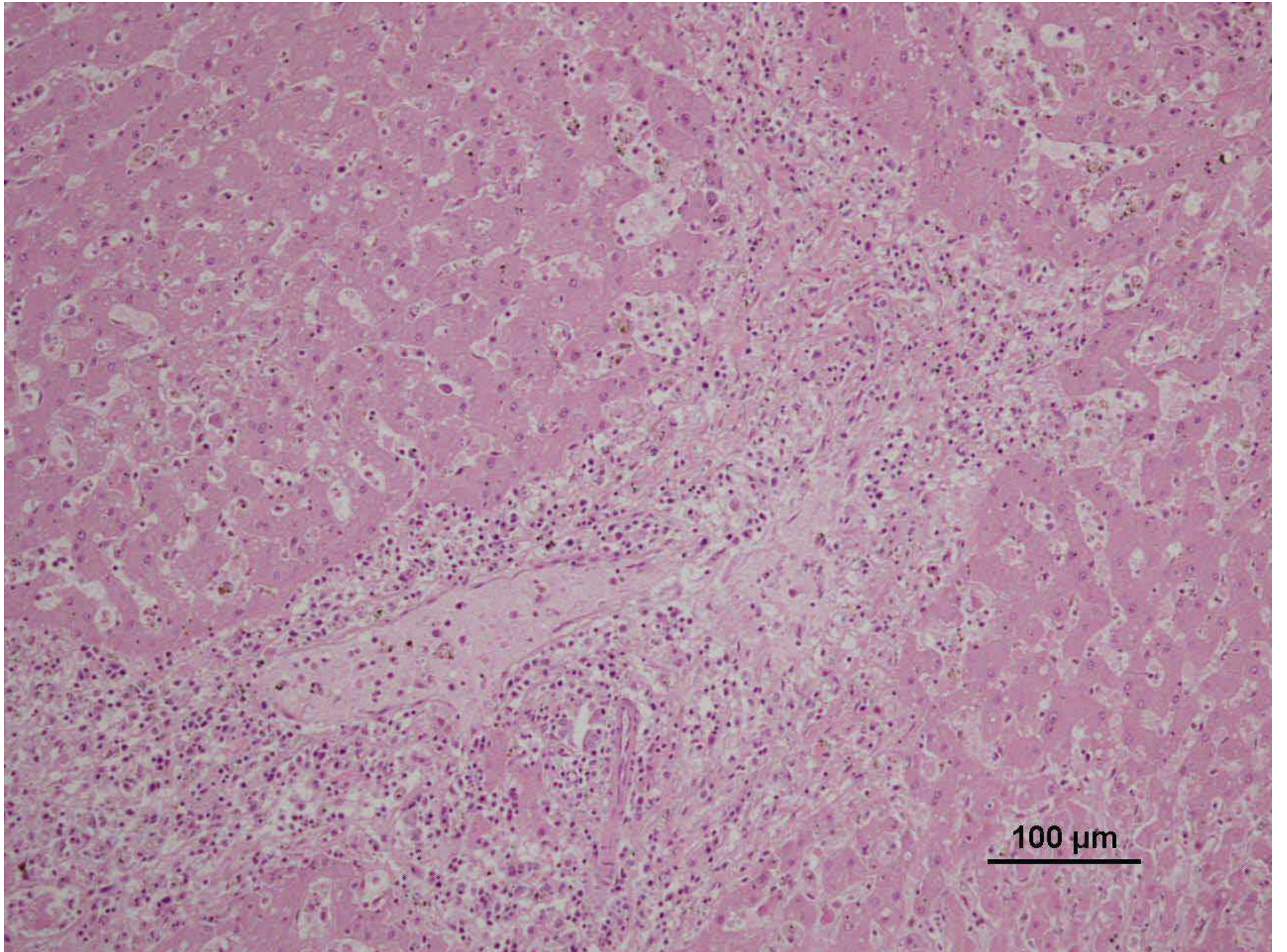




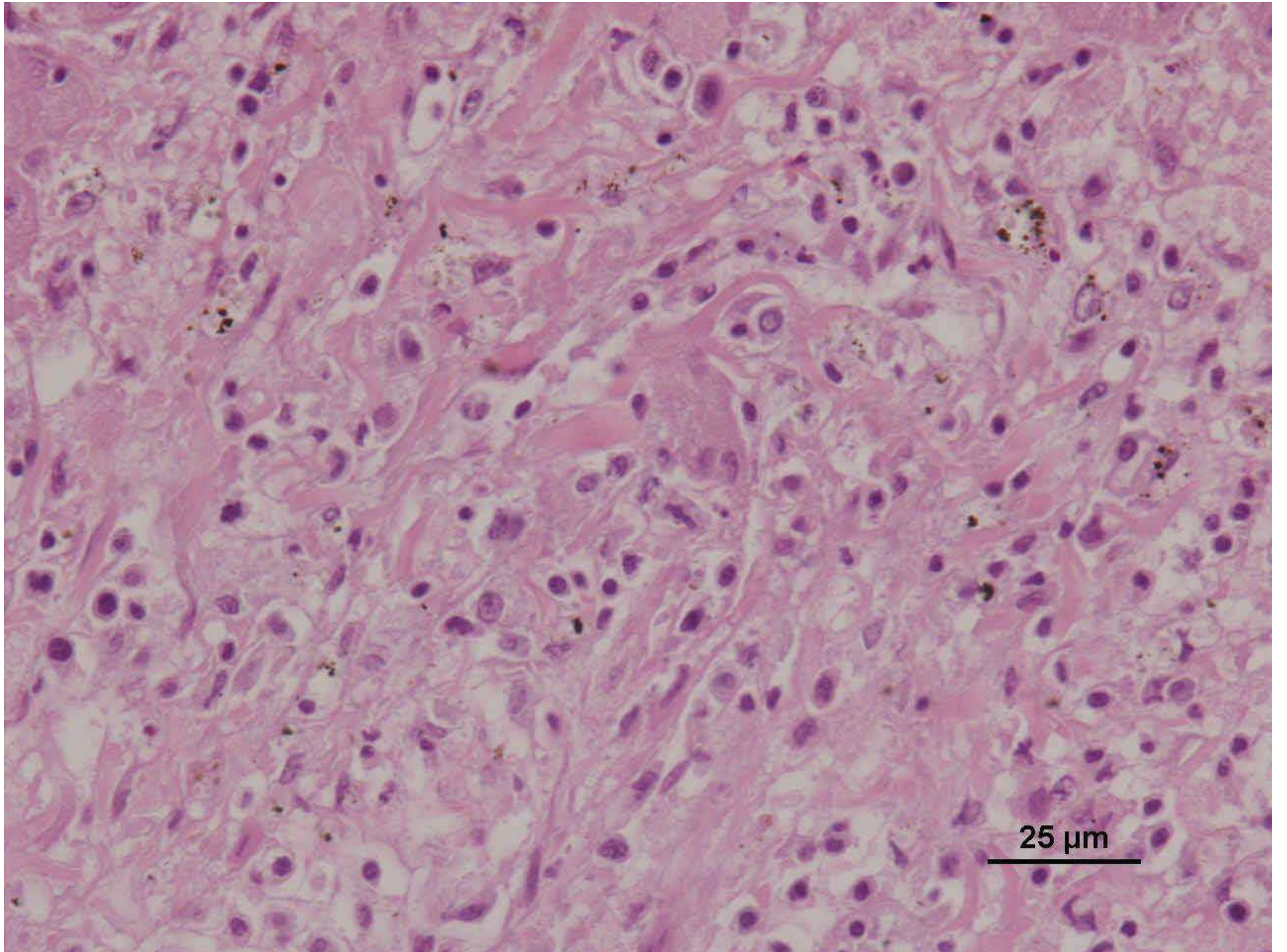




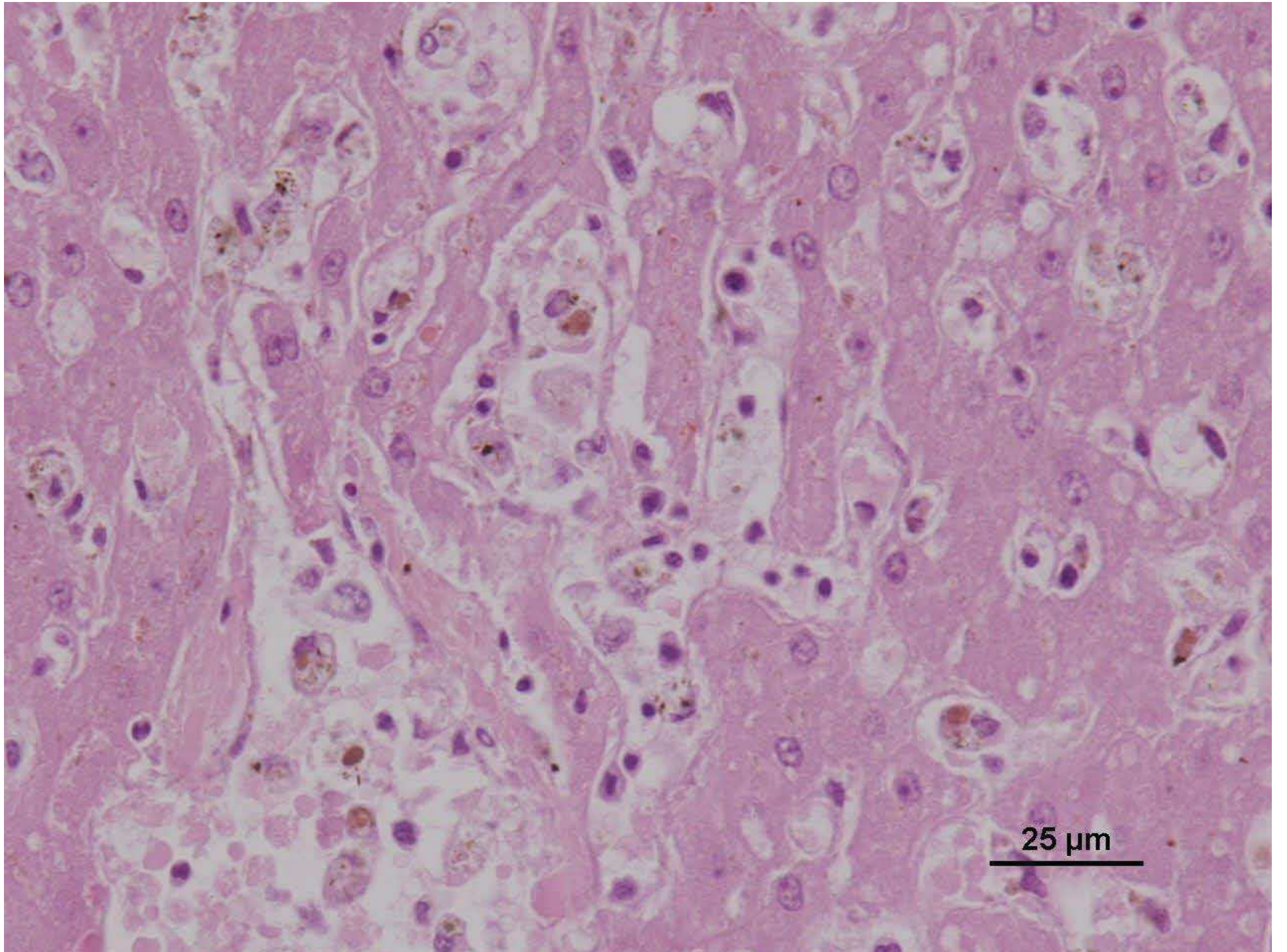




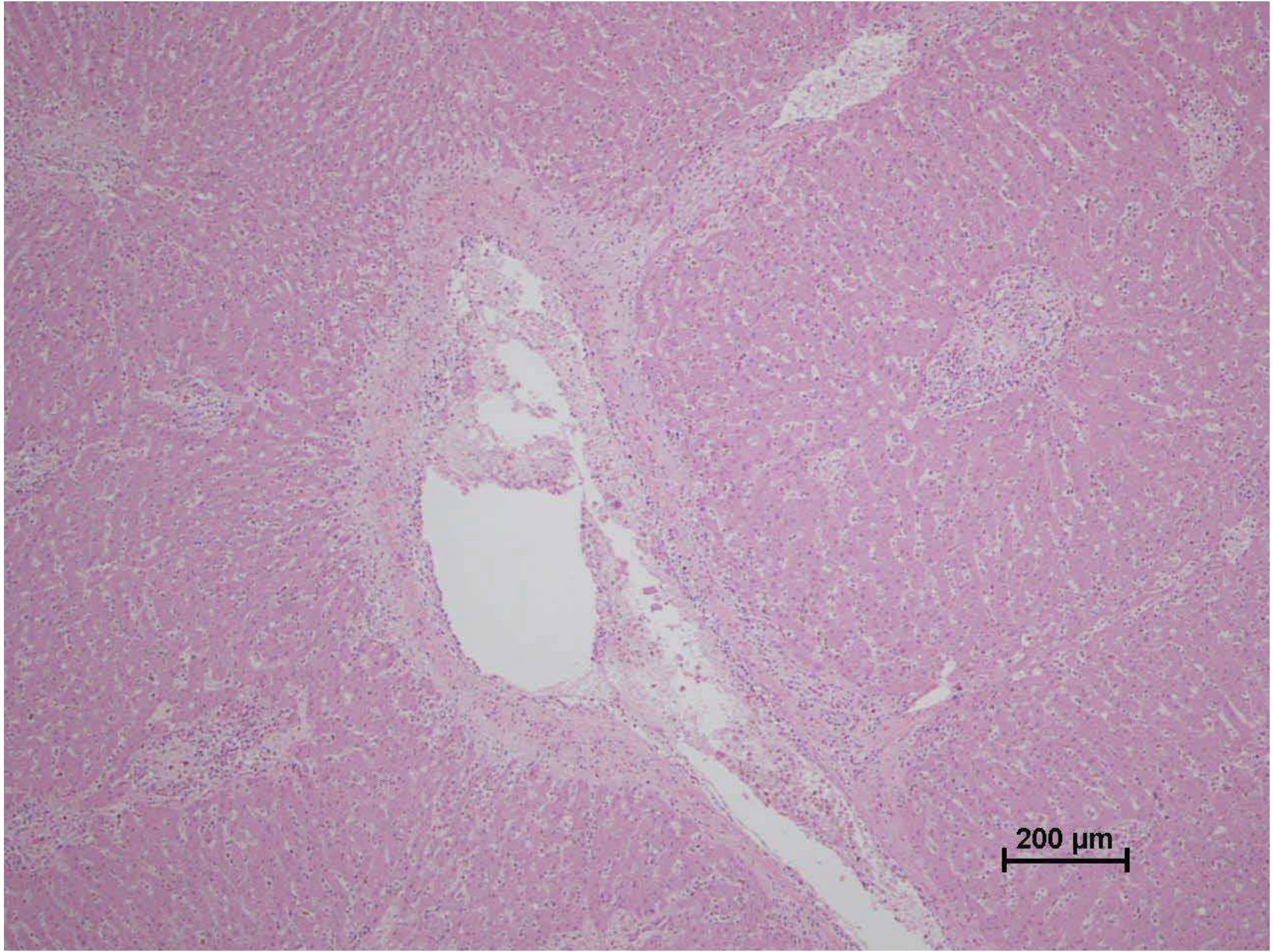




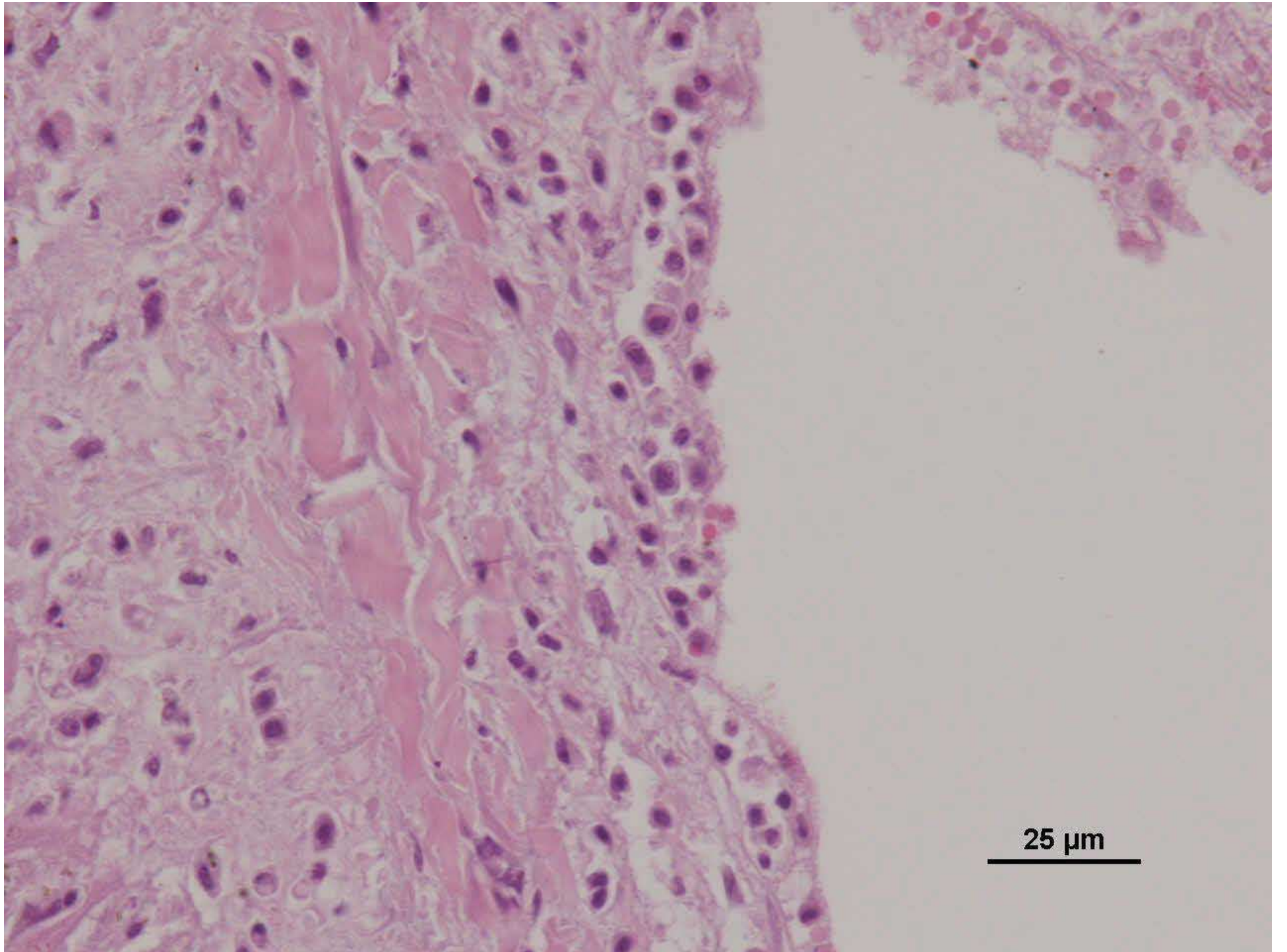














## 提出者の診断

リンパ組織球性肝炎、慢性、門脈周囲の、中等度から重度の、  
細葉辺縁性壊死および時に赤血球貪食を伴う

Lymphohistiocytic hepatitis, chronic, periportal, moderate-severe  
with periacinar necrosis and occasional erythrophagocytosis

## JPCの診断

肝臓：肝炎、リンパ形質細胞性、門脈の、びまん性、中等度の、  
小葉中心性線維化、赤血球貪食、ヘモジデリン沈着および  
軽度の肝細胞変性および減少

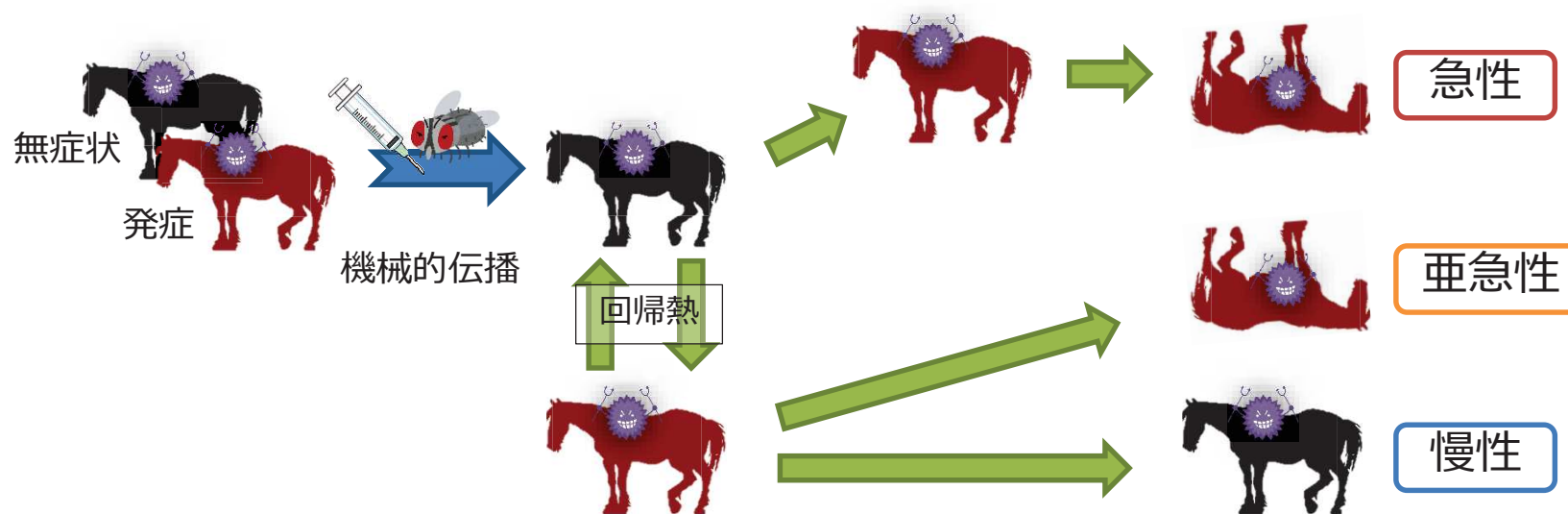
Liver : Hepatitis, lymphoplasmacytic, portal, diffuse,  
moderate with centrilobular fibrosis, erythrophagocytosis,  
 hemosiderosis and mild hepatocellular degeneration and loss



# 提出者のコメント

## ◆ 馬伝染性貧血（EIA）

- ・レトロウイルス科レンチウイルス属の馬伝染性貧血ウイルス(EIAV)が原因
- ・世界中に分布し**ウマ科動物**に感受性
- ・機械的伝播（昆虫の刺咬、汚染された医療器具）により感染
- ・臨床症状は、発熱、貧血、浮腫、脾腫、点状出血  
→**持続的なウイルス血症、回帰熱**が特徴
- ・ウイルスは主に肝臓、脾臓、リンパ節の組織マクロファージ内で増殖

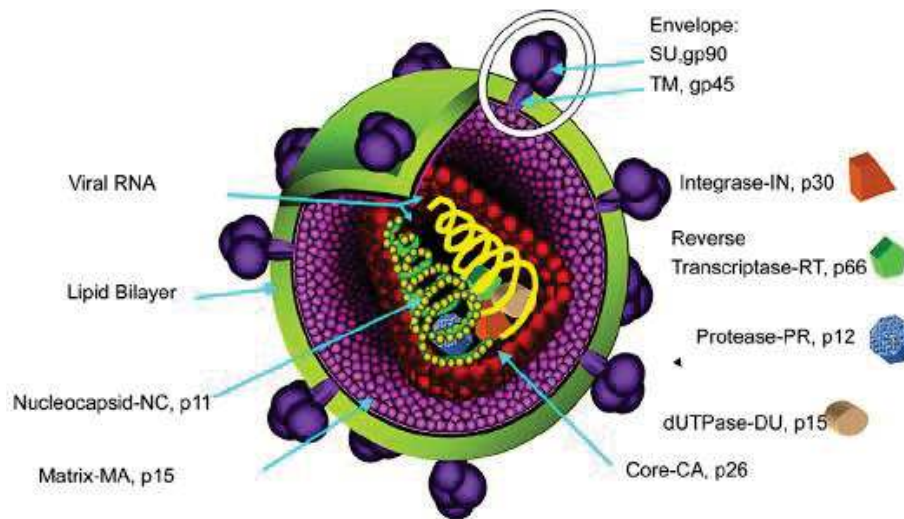




# 会議のコメント

## ◆ EIAVの免疫回避

- ・ 表面抗原を頻繁に変える  
→ 抗原特異的な免疫応答を回避  
→ 発熱の各ピーク時に採取した  
ウイルスの抗原性は異なる



引用 : Vet Clin North Am Equine Pract. 2014,30(3):561-577

## ◆ EIAによる貧血

### ① 赤血球の寿命が短縮

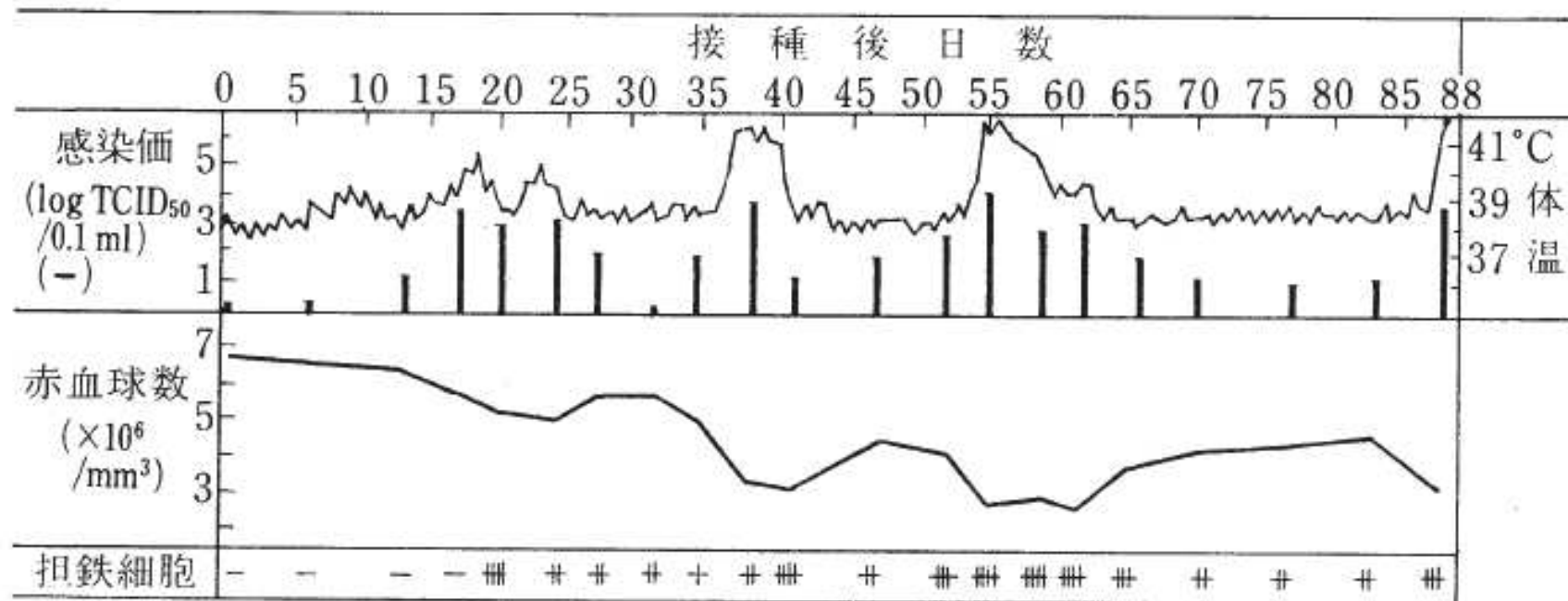
- ・ 赤血球にウイルスが結合  
→ 補体(C3)や抗体によるオプソニン化  
→ 赤血球が変性、マクロファージ貪食

### ② 造血機能の低下

- ・ 骨髓実質の退行性変化
- ・ 造血細胞のびまん性変性

感染初期 再生性貧血 → 感染末期 非再生性貧血





注) 白血球1万個当たりの担鉄細胞数[-:0~4 +:5~20 #:21~50 ≡:51~100 ≡:101以上]

図1 伝貧感染馬の臨床症状; 再発とウイルス血症, 貧血, 担鉄細胞の出現の関係 [KONO, Y., et al.: *Natl. Inst. Anim. Health Q (Jpn.)*, 10, 113~122 (1970) から]

### ◆ 類症鑑別：馬ウイルス性動脈炎 (EAV)

- アルテリウイルス科EAVウイルス
- 急性期には発熱、鼻炎、結膜炎、浮腫等がみられる
- 肉眼病変は出血と水腫、組織病変は小動脈中膜の炎症、変性壊死